

西村寿雄様

拝啓 早春の候、先生におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は大阪市立大学大学院理学研究科（化学科）を 2009 年に定年退職した者です。私が所属していた研究室の先輩である利安義雄さんをご存知かと思いますが、科学教育センターに勤めておられたので、センターには実験のためによく行っておりました。講義をさせて貰った事もあります。

先日奥様より私の連れ合いに御著者『地球の発明発見物語』をお送りして戴き、私も読ませて戴きました。地球の歴史が大変わかり易く解説されており楽しく読ませて戴きました。地球に起きた大昔の変動の謎を如何にして解いて行ったのか、関わった人々の疑問、発見、発想、粘り強い探求が歴史的流れに沿って解説されていて、まさに理学の本質が語られています。会話がリアルで臨場感があり、思考を誘導してくれます。要所に挿入された絵や写真や図式も分かり易いです。私は基礎熱力学を1回生に長年講義してきましたが、歴史の流れに沿って解説するのがエントロピーを理解する最も良い方法だと思っています。

大陸移動説が確立したのは極最近の 1975 年で、高知の地層の解析が決め手であったとは驚きです。デボン紀やカンブリア紀等の名称が地名や国名に由来するとは知りませんでした。地球の地層が一様に変化して来たのも驚きです。3月11日、正にプレートが移動することを見せ付けた巨大地震が発生しました。私の講義では原子力が‘クリーンエネルギー’では無いとコメントしてきましたが、原発事故も起きてしまいました。プレートが移動することが分かっているにも拘わらず、放射能半減期が1万年を超える放射性廃棄物を地下に埋めて安全とする根拠が分かりません。あらゆる政策は理学に立脚して議論し、決定するべきです。その意味で理学教育が極めて重要です。

信愛 田中礼二